

浅口市議会 平成21年第8回12月定例会 - 11月30日-01号

○議長（大西洋平） 御異議なしと認めます。よって、議案第55号については委員会付託を省略することに決定いたしました。

次に、討論を行います。

討論の希望はありませんか。

反対ですか、賛成ですか。

（3番「反対です」の声あり）

どうぞ。

◆3番（桑野和夫） 浅口市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について、反対の立場で討論に参加をします。

この改正の根拠になっております人事院勧告ではありますが、今回は財界追随、生活破壊の史上最悪の水準であることをまずもって申し上げたいと思います。

さて、反対理由の1つ目ではありますが、不況の中で国民の購買力が落ちデフレ傾向が懸念されている中で所得を減らすことは、さらに消費を落ち込ませ、不況に拍車をかけることとなります。今必要なことは、いかに購買力を上げて物が売れる状況をつくるかではないでしょうか。今回の措置はそれに逆行するものであり、認めることはできません。

2つ目は、人事院勧告のあり方の問題であります。もともと人事院勧告は公務員の団体交渉権と争議権を制約していることへの代償措置として存在しており、公務員の利益を代弁すべきものであるにもかかわらず、生活を脅かす勧告を行うことは認めることはできません。

3つ目は、公務員の賃金の引き下げは、ひいては民間の労働者の賃下げにつながるということで反対であります。今、民間労働者と公務員がお互いに賃金引き下げの競争が強められ、結果として労働者全体の賃金水準が引き下げられるという悪循環が繰り返されています。100年に一度という景気悪化の中でも、大企業は莫大な内部留保金をため込んでおり、しかもその中の役員は今でも高額な報酬を受け取り、株主にも高額配当が支給されています。その一方では、昨年、年越し派遣村に見られるように、大量の非正規労働者の雇いどめや、正規労働者のリストラを進めようとしています。景気悪化による減収、減益だけを理由にして内部留保を取り崩すこともせず、むしろそれを正当化するために公務員攻撃を強め、公務員給与の引き下げを迫る財界の思惑に、政府は安易に屈してはならないと思います。今年度は、これまでの人勧のルールを無視して夏季一時金の引き下げが強行され、それに続く月例給と期末勤勉手当の引き下げとなっており、市長は本市職員の生活と権利を守る立場に立てば、職員の労働の対価としてふさわしい賃金の算定を行い、日々の暮らし、そして子育てに必要な給与水準になっているかどうかなど、自主的に判断をすることも必要であります。民間を含めた賃下げの悪循環に歯どめをかけるためにも、本市での賃金引き下げは行わないという決断を実行するべきであることを申し上げ、議員の皆様

さんの御賛同を心から御期待申し上げ、反対討論とします。

平成21年第8回12月定例会 — 12月08日—03号

○議長（大西洋平） それでは、再開いたします。

次に、3番桑野和夫議員、どうぞ。

どうぞ。

◆3番（桑野和夫） それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

今回、私はJR金光駅の整備について、そして高齢者などの交通手段の充実について、また管理されてない土地の草刈りや家屋の処理について、そして市長のこれまでの政治姿勢について、以上大きく言って4点についてお聞きをします。明快な答弁をお願いをいたします。

まず、JR金光駅の整備について質問をします。

以前、JR金光駅の利用者を中心にアンケートを実施をされていますが、そのアンケートの集計結果と特徴点の報告をお願いいたします。同時に、このアンケートを踏まえての今後の整備の方向についてお聞きをいたします。

また、今年の6月議会の一般質問で、平田議員から南口の改札の要望が出され、そのときの答弁では、JRと協議をするというお答えでしたが、その後どうなったのかお聞きをします。

また、アンケートではこの南口の問題、どういう結果だったのか加えてお聞きをします。

次に、高齢者の皆さんの交通手段の充実について質問します。

商店街などが急速に衰退をし、たった1丁の豆腐を買うのにもタクシーに乗っていかねばならない、これも現実に生まれています。高齢者にとって交通手段の問題は死活問題であります。浅口市としてこの問題、早急に改善を図ることが求められていると思いますが、そうした中で浅口市は、地域公共交通会議を平成20年3月24日に設置をされていますが、今まで何回会議をして、どのような議論をされてきたのかお聞きをします。

次に、管理をされてない土地の草刈りや家屋の処理についてお聞きをします。

この質問の趣旨であります。例えば宅地の所有者が行方不明になったり、所有者が事実上存在しないし、相続人もわからない、こうした場合に当然その土地は雑草が生い茂り、家屋が古くなれば倒壊の危険が生じてきます。そうなれば、隣地や道路が被害を受ける可能性があります。所有者が存在していたり、あるいははっきりしていればお隣同士で話をすればいいのですが、事実上わからない場合は処理のしようがありません。そうすると、行政に相談をするんですが、民法上の問題もあり、なかなか解決できません。

そこで、お聞きしますが、現行の条例等でこの問題に対応できる条項はあるのかどうか、

お聞きをします。

最後に、市長にお聞きをします。

市長は来春の市長選挙に出馬しないということですが、浅口市ができて、これまでの御苦労に敬意を表したいと思います。同時に、市長のこれまでの政治姿勢についてお聞きをします。

まず、旧3町の均衡ある発展はどうだったのか、お聞きをします。

特に、金光町の方の意見として、どうも鴨方中心であるというふうな話も聞きます。旧3町の均衡ある発展を今どうお考えか、お聞きをします。

それから、その中で合併後、金光町の事業は主に何をされたのか、重ねてお聞きをします。

それから次に、今月の広報浅口を見ますと、トップ記事として中国高安市との友好都市提携を締結したと報道されていますが、この間市長はこうした国際交流事業を積極的になされてきました。

そこでお聞きをしますが、こうした国際交流事業は市勢の発展にどうつながったのか、現在までの到達点をお聞きをします。

また、昨年と同様な質問がありましたが、浅口市には植え木があり、果物があり、魚があり、めん類があります。そして、自然も豊かであります。こうした浅口市の特徴を生かしたまちづくりの到達点についてどう評価されているのか、お聞きをします。

以上、よろしくお願ひします。

○議長（大西洋平） それでは、質問に対して答弁求めます。

最初に、JR金光駅の整備についてを栗原理事より答弁求めます。

どうぞ。

◎理事（栗原英行） まず、金光駅周辺整備事業のアンケートの結果でございますけど、金光駅の1日当たりの利用客の人数は、20年度においてでございますけど、平均5,160人でございます。その中、毎日同じ方が利用されているというのが7割でございます。また、7割のうち約9割が通勤の利用ということでございます。

そのような中で、平成21年5月にアンケートを実施いたしました。人数といたしましては、電車を利用する方500人にアンケートの受け答えということで行いました。主な内容といたしましては、金光駅までの通勤手段、また駅南口への改札口の設置の考え方等という内容でございます。

その調査の結果につきましては、うち274通の回答がございました。回収率で54.6%でございます。この内容からいきますと、関心が高い調査であったと考えます。そして、南口の設置についてでございますが、設置すべきという方が61.3%、設置は不要という方が14.9%、どちらとも言いがたいと言う人が23.8%という結果がございました。このような結果を受けまして、今後の方向といたしまして金光駅周辺整備事業として、新都市計画に位置づけられております駅周辺の一体的な発展に向けての今後の整備

が必要と考えられます。

しかし、現在の金光駅につきましては、団体利用の臨時改札口が南側にありますが、これにつきまして、金光教の祭典等に利用される以外は閉まっているというような状況でございます。

このようなことから、南改札口の自動改札機への転換及び常時改札への改良等、市といたしましても利便性を考え、JR及び関係機関との調整を踏まえております。この中で、整備についての手法等を課題として、今協議中及び勉強中でございます。

以上でございます。

○議長（大西洋平） 次に、高齢者などの交通手段の充実についてを企画財政部長より答弁求めます。

どうぞ。

◎企画財政部長（楢田忠） それでは、高齢者などの交通手段の中で、地域公共交通会議についてお尋ねがございましたので、お答えをいたします。

地域公共交通会議につきましては、現在まで2回開催をいたしまして、まず委員の皆様から市内の公共交通の現状や市民アンケートの結果、路線バス以外の公共交通の制度の概要等を説明をいたしました。また、運輸局や県交通対策課職員の方からも、地域公共交通会議の趣旨や協議に関する助言、指導等をいただいたところでございます。

その協議事項につきましては、住民サービス向上に向けて、市内7系統のバス路線、ダイヤモンド交通、福祉バスなどさまざまな方向が考えられ、費用対効果を勘案しつつ、現在さらに研究をしているところでございます。

高齢者の交通手段確保の面では、福祉輸送対策としてのダイヤモンド交通などが考えられますが、公共交通という観点からは、最大公約数的な制度にならざるを得ないと思います。

また、JR路線への乗り継ぎなども検討する必要がありますし、今後は地域公共交通会議の委員の皆様からの御意見をいただきながら、市民が利用しやすい交通体系について協議を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（大西洋平） 次に、管理されていない民地土地の草刈りや家屋の処理についてを産業建設部長より答弁求めます。

どうぞ。

◎産業建設部長（流尾広秋） それでは、3番目の管理されていない土地の草刈りや家屋の処理についてお答えをさせていただきます。

御指摘のように、人口減少社会を迎える中で、市内でも空き家率が上昇する傾向にあります。空き家の庭にある樹木などが手入れをされずに放置されている状態が続き、草等が生い茂り、荒れてるところが多々見受けられます。倒壊のおそれのある民有地内の危険家屋でございますが、こういった情報提供があった場合には、県の建築指導班に連絡をさせていただいております。その後、県の建築指導班のほうから所有者に対し、修理や撤去な

どの依頼を行っておりますが、私有財産ということもありまして強制力はなく、行政の介入には限界があると思われまます。市民の安全・安心を最優先と考えますが、基本的には個人に任さざるを得ないのが現状でございます。御理解をいただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（大西洋平） 次に、市長のこれまでの政治姿勢について市長より答弁求めます。
どうぞ。

◎市長（田主智彦） 十分まとめておりませんが、またあれやこれや申しますと自慢話にもなりますし、ぐちにもなりますので、どの辺まで申し上げてよいかと、今考えていたところであります。

基本的には、抽象的な言い方で、いつも明るく元気な住みよいまち、皆さんが誇りを持てるまちにしましょうということ呼びかけをさせていただきました。

しかし、3町の合併であります、都市計画の違いに象徴されるように、お隣でありながらこんなに文化や風土が違うものかなと驚いているというのが、私の正直な気持ちであります。合併は、何回も申しましたが、合併などしたくなかったと思います。どこのまちもしたくなかったと思います。明治に7万9,000あったものが3,300になり、それをさらに政府は、国が行き詰まった、わかりやすく言えばですよ、その閉塞感を打破するために合併してほしいと、地方が元気にならなきゃ日本がよくなるというような理屈のもとに合併をしてほしいということで、半強制的に合併をさせられたわけです。きのうも申しましたが、決して自己責任、自己決定、すべてそのもとになされたものでは断じてないと、私はいつも言っております。

しかし、日本の国はみんな助け合いながらやってきたのが日本ですから、これも何回も申しました。ですから、自分さえよければよい、国が困ったから合併してくれというわけですから、それは積極的に国に協力してきた、それで今、今日の日本があるわけですから、その上にきちっとした日本もあり、ジャパンアズナンバーワンもあるわけですが、そういう歴史の流れを考えれば、お互いによいあしたを夢見ながら合併をしたと、そのことは私は間違っていない。

では、どうしてこういうふうには不満があるのか、それは私も呼びかけました。一人一人がよい浅口市をつくりましょう、よい浅口市にしましょう、そういう努力や意欲を持ってください、努力をしてください、意欲がなければ、どうせ役場がやるんじゃと、政治がやるんじゃ、議員がやるんじゃ、そういうお考えを持たれたんでは、それはいいまちになりません。みんなが自分が住んでるまちをいいまちにしよう、よそからうらやましがられるようなまちにしよう、これだけのすばらしい自然や歴史や文化やいろんな財産があるわけですから、そういうことを何回も呼びかけてまいりました。

でも、今議員さんが言われたように、金光町は何か割を食ったというか、どう言われたか、そういう意味の発言がありましたが、私はそういうことも3つ一緒になりますと真ん中が鴨方でもありますし、どうしてもそういうふうなことも言われるだろうという推測はし

ておりました。したがって、まず名前を浅口という名前を残して一体感をつくる、それから金光、鴨方、寄島という名前を残し、歴史を大事にするということから始めたわけです。

また、駅のここで事業をやりますが、それが大きく影響しているように私には思います。昔は、倉敷、玉島、鴨方駅だったわけですが、玉島も玉島駅より鴨方駅のほうが大きかったわけです。ここで、汽車に水を補給していた、新聞も鴨方でおろしていた、それを玉島へ持って帰ってたわけです。歴史的には、また鴨方と玉島は非常に同じ文化圏でありましたし、おつき合いもあった。文人墨客も往来して、本当に近所づき合いが、交通手段が不便な時代ではありましたが、だんだんいろんな客観情勢が悪いせいでしょうか、そういう御不満も聞こえてまいりました。

何をしたかという具体的なお話がありますので、均衡ある発展はもちろん指示しました。ですから、余り言うともあれもした、これもしたになります。まず水道料金を下げました。これはもう生活に直結するわけですから、非常に喜んでもらえたとは思っています。それから、都市計画税も御承知のように、お金もないのに4,000万円これを減額しました。これなんかも清水の舞台から飛びおりの同様です。それから、下水道も計画のなかった地域、例えば地頭下であるとか大谷東ですか、そういうところも新しく下水道事業をさせていただいた。また、何よりも私は一番大事な仕事は何かと言われれば、教育ですから、あすの日本を、あすの地域を担うのは子供たちですから、英語教育を中心に何とか子供たちが立派に育つようにということで、教育には力を入れさせていただきましたし、また分け隔てなく英語教育についても3町にこれを広げたわけでございます。

一例を申しましたが、そういうふうには何ら私とすればむしろ意識して金光町に少し事業を多目にということか、そういう配慮もしたつもりです。ですから、きのうですかきょうでしたか申しましたように、土木関係の事業を1つとりましても、約半分が金光町でありますし、またその事業に携わる人間もなるべく金光町のいろんなことに精通している人間を返して配置転換をして、喜んでいただけるように図ったつもりでございます。

しかし、いろんなことはしたんですが、それはこちらの一方的な宣伝、言いわけになるかも知れませんが、そういう御不満があるということは事実であります。事実は違います。そういうふうには、自分とすれば公平に、むしろ多目の配慮で、また私が大変期待しておりましたのは、今の日本で一番懸念されるのはみんなが心の支えをなくしているわけです。つまり、もっと具体的に言うてしまえば、昔はみんな宗教を持っていた。金光町はそういう意味で非常に宗教色の強いまちですから、その辺を大変期待しておりました。みんなが、さっき言ったように、日本人は自分勝手じゃありません。そういうところは、皆そういう宗教的なものから来ているわけです。そして、自分を犠牲にして他人に喜んでもらうとか、いろんなそういう徳目はすべて宗教、武士道もちろんかかわっておるでしょうが、そういうよいものをたくさん持ってたわけですが、そういうものが今日日本ではな

くなりつつある。だから、泥棒も入るし、先ほどのお話のように不法投棄もするわけです。だから、そういうこの地域だけでも古きよき日本を取り返そうということで、この合併に大変私は期待をしていたわけでございます。

このぐらいにさせていただきまして、旧3町の発展ということは終わらせていただきますが、国際交流事業ですが、これは旧鴨方町が、これももとはといえば、今の金光学園、明治41年にアメリカの宣教師を英語教師として招聘をしたと、そういうその再現を私は願って、金光学園にそう願って、それを実現したと。それをまた、行政にも持ってきたわけでありまして、特にグローバル化が進み、国際化というのが本当に国の発展を決めるような時代になりましたから、余り難しいことを言うんじゃないで、やはりお互いにコミュニケーションをとるのには国際共通語でなきゃいけない、そういうことから英語に子供になじんでもらおうということで持ってきたわけでございます。

国際交流事業は、旧鴨方町では社会人の方も毎年20人程度オーストラリアと中国でしたが、訪問していただいて、友好交流を図っていただきました。どういう市勢の発展につながったかと、こう言われますと答えが難しいわけです。それはもう十分つながったと申し上げたいと思いますし、また国際交流には感激があります。国境線を越えただけでもすごい感激がありますし、相手の国の自然を見たり、文化を見たり、歴史を見たり、あるいは科学技術に触れたり、いろんなことをする中にやはり大きな発見もあるし、感激もある。感激のない人生は空虚といいます、そういう意味でも国際交流事業は大いに役に立っているのではないかと、特に子供には夢を与えたのではないかと、自画自賛をしているところでございます。

3番目の浅口市の特徴を生かしたまちづくりはどうなっているかと、これは今申しましたようなことでお答えになるかと思いますが、昔は江戸時代は池田藩で、この3つのまちは池田藩の中に一つであったと思います。ですから、そういう意味で1つ歴史の時計の針を戻せば、同じ地域であったというわけですから、もっとそこはお互いが家族的なアットホームなといえば言葉が適切じゃないかもわかりませんが、本当に同じ歴史を刻んできた、同じ地域を生きてきたというようなことで意識をしていただければよいのではないかと、うふうな気がいたします。

昨今は文明が急激に進んでまいりまして、例えば鴨方駅は118年で、きのうも申しましたが、金光駅が金光駅となってちょうどことしで90年です。以前は金神駅ということで、おくれること10年でできたんですが、また電気が金光町に初めてともった。これはそういうことは何で知っているかという、私も学校にちょっと関係しておりましたので、電気が来て96年、そういうずっとここ100年の発展ぶりを思いますと、お互いに対立というよりも、また新しい時代を手を携えながら、難しい時代が目の前に来てるわけですから、そちらのほうに目を向けていただいて、これからまたこの3町だけの合併では済まないと思います。恐らく、30万ということを学者先生が言われますので、中央政治がどうおっしゃるか知りませんが、30万となると少なくとも井笠圏、井笠圏で十五、六万で

すから、そこまでやれば消防でもごみでもいろんなものがまああできる。ですから、早くそこへ持って行って、後はちょっとお断りするというようなのが私はいいいんじゃないかと、ちょっとこれは御質問から外れますが、そういうことで、最後に繰り返しになります。そういう3町の発展、一つの融和を願いながら、今日までやってきたということだけ知っていただければと思います。長い答弁で済いません。

○議長（大西洋平） 再質問ありますか。

どうぞ。

◆3番（桑野和夫） まず、JR金光駅の整備についてであります。私は広場を含めた金光駅の整備については、JR鴨方駅の橋上化みたいに莫大な費用をかけろとは決して言いません。ただ、機能的で使いやすくしてほしいと思います。その上で、整備をする場合に、1つは地元市民との合意と計画段階からの市民参加の保証。そして2つ目、金光にふさわしい潤いと緑のある整備。3つ目、商店街との協議。この3つを約束をしてほしいと思いますが、再度答弁を求めます。

同時に、南口の改札の問題であります。JRと協議をされたというふうにお聞きをしました。正式な回答はないんでしょうけども、可能性があるのかどうか、あるとすればいつごろまでに市としてやる気持ちなのか、その辺を再度お伺いします。

それから、高齢者の交通手段の充実であります。地域公共交通会議、もうすぐ設置をして2年がたとうとしていますが、会議はたったの2回のみ。これこそ、お役所仕事ではないでしょうか。先ほども言ったとおり、この問題は高齢者にとって死活問題であります。とても2年も3年も待てない、これが実感であります。早急に何らかの対策を実施してほしいと思いますが、その決意のほどをお伺いします。

それから、管理をされていない土地の問題であります。副市長にお聞きをします。

全国的には、こういったケースで条例を制定し、条件をつけて行政が何らかの措置をするというふう聞いていますが、必要な調査をして今後検討されるお気持ちがあるのかどうか、お聞きをします。

それから最後に、市長の政治姿勢についてお聞きをします。

金光町で実施された事業として、都市計画税の廃止、それから水道料金の引き下げなどを上げられました。ちょっと認識が違うのかもしれませんが、こういう問題は基本的には合併協議会で決まったことでありまして、先ほど市長のほうが金光をいろいろ意識的に事業をしたというふうにおっしゃいましたが、新市になって金光町のことで市長がおやりになったことは、そう多くはないのではないかとこのように思います。その辺、再度答弁をお願いします。

それから、国際交流事業であります。この事業を私は意味がないとは言いません。しかし、少しやり過ぎじゃないかというふうに思います。例えば、今年度の予算は中国、韓国、オーストラリアを対象とした国際交流事業費に1,100万円あります。また、外国青年招致事業が1,600万円あります。費用対効果の面でいかななものかと思いま

す。昨今の経済情勢のもとで、もっと困っている人に一層手を差し伸べることも大事ではないかと思しますので、この辺どうなのか、再度答弁をお願いします。

また、まちづくりであります。この12月補正での約2億円の減額になっていきます。工業団地事業の縮小は、これが今の経済情勢からして賢明な判断だと私は思います。私は、当面、浅口市の特徴をしっかりと生かして地に足をつけたまちづくりが大事だと思います。同時に、昨日、市長は市民からアイデアをしっかりと募集することも大事と言われましたが、これも同感であります。観光協会やまちづくりの協議会の人選で、やる気のある一般市民の方を公募してみたらどうでしょうか。この辺、まちづくりの方向性を含め、再度簡単な答弁をお願いします。

○議長（大西洋平） それでは、再質問に対する答弁求めます。

最初に、JR金光駅の整備についてを栗原理事より答弁求めます。

どうぞ。

◎理事（栗原英行） 金光駅の整備で、広場を含めた整備ということで、まず1点が地元市民との話し合いの中、2点目が金光にふさわしい整備された駅、3点目が商店街についての協議等ということでございますけど、まずまちづくりにつきましては、それぞれの地域によってさまざまな格好でございます。そういった中で、限られた財源の中、地域のニーズに対応したまちづくりをすることが必要だと私は思っております。そういうことで、当然先ほど質問されました地元との協議、またふさわしい姿、それから商店街等についての御相談というものは考えて、今後勉強していきたいと思っております。

しかし、金光駅周辺におきましては、現在歴史、文化、また自然環境等がいろいろな格好でございます。それらと交通体系等を含めまして、地域の利便性に配慮した整備ということで、勉強していきたいと考えております。

次に、整備をしていく可能性というか、整備としての可能性の……

（3番「南口の問題」の声あり）

南口についての可能性の問題でございますけど、これにつきましては、アンケートの中でも皆様方、南口を利用される方の7割の方々が必要だということを言っておりますので、費用が大きくかかる事業内容としてはすぐにとすることは難しいと思っております。人としてのサービスということの提供を考えまして、今後これにつきましてもJRのほうと協議していきたいと、このように考えております。

以上です。

（3番「JRの感触」の声あり）

JRの感触といたしましては、現在鴨方駅の整備の促進に当たっております。そういうこともございまして、鴨方駅の整備の進捗状況を見ながら検討したいということで、市のほうとしてもそういう要望について協議していきたいと考えております。

○議長（大西洋平） 次に、高齢者などの交通手段の充実についてを生宗副市長より答弁求めます。

どうぞ。

◎副市長（生宗重信） 地域の公共交通体系を考える場合、まずいかに多くの地域住民に利用していただけるかということが課題になります。人口密度の高い地域を効率よく路線バスを走らせることで、利用者の拡大を図ることができれば、これに見合う収益確保により、市の補助金も結果的に軽減されることとなります。人口密度の低い地域まで路線を延長すれば、どうしても市の補助金が増加し、財政運営に影響してまいります。

したがって、小集落地域などの交通手段につきましては、路線バスとはひとまず区分して、別の施策として検討していく必要があるのではないかと考えております。公共交通という1つの施策だけですべての市民のニーズを満たすことは非常に困難であるため、現状の交通体系をよく分析するとともに、市民に満足していただけるよりよい交通サービスが実現できるよう、できるだけ早く内容を検討し、進めてまいりたいと考えております。

本当に時間がかかって皆さん方におしかりを受けております。申しわけなく思っております。できるだけ早くやりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○議長（大西洋平） 次に、管理されていない土地の草刈りや家屋の処理についてを大室副市長より答弁求めます。

どうぞ。

◎副市長（大室照明） 土地の草刈りとか危険な家屋の処理でございますけども、今流尾部長のほうから御答弁申し上げたように、ただいまのところでは県のほうへ通知する中で、その処理を対策をとっておるというのが現状でございます。今お尋ねの件は、やはり市のほうでの条例ができないかということだろうというふうに思いますが、他の先進地等の自治体もあるというふうにただいまお聞きしましたので、いわゆる私有物の法律というようなのがございますので、処理についての、そういったことにどういうふうにかかわってくるのかというような問題もございますので、ぜひそういう先進地の条例も調べる中で、我々の市で何ができるのかということをお急ぎに検討してまいりたいというふうに思います。

○議長（大西洋平） 次に、市長のこれまでの政治姿勢について市長より答弁求めます。

どうぞ。

◎市長（田主智彦） ただいま議員さんのほうから、何か十分理解がいかないという意味の御発言がありましたが、1つは、これは私の主観ですが、やはりまちが対立しているということが大きな原因ではないかと思っております。大きな選挙をなさいましたし、そういうことをずっと引きずっておられるというふうに感じております。

また、私が水道料金や都市計画税のことを申しました。あれは、合併協議会の約束であると言われましたが、それはしかし私の政治公約ですから、そういうふうな言われ方をすると私も心外でございまして、なかなかマニフェストあるいは約束事であっても実行しない首長もいるわけですから、これはきちっとすぐ実行し、都市計画税は2期に分けましたけど、それはそういうふうにお考えにならないようにしてほしいと思います。

また、下水道についても申しましたし、いろんな小さいこと、例えば八重のスポーツ公園から始まっているような地域のそういう公共施設に手を入れておりますので、それは一々ここで申さなくても十分おわかりのことだと思いますし、また予算のことは、部長あたりから恐らくお聞きになってると思いますので、十分おわかりだと思います。ですから、金光町は人口比でいきますとどのぐらいになるんでしょうか、三十数%になるんでしょうか、はるかに多い予算配分になってると思いますので、よくお調べいただければと思います。

(3番「ありがとうございました」の声あり)

○議長（大西洋平） 御苦労さまでした。

暫時休憩いたします。

午前11時52分 休憩